

# 日本山岳会 越後支部報

## 第 13 号

平成27年7月1日

発行 日本山岳会越後支部

発行者 遠藤家之進正和

新潟県新潟市南区鷺ノ木新田1049

TEL・FAX 025-362-5004

広報委員長 本間 一人



## 私の一枚

飯豊連峰大日岳 (2,128m)

1974年4月30日の朝、大日岳をめざし切合せ小屋を友人と出発した。お昼まで戻るとつもりで軽装、ビスケット・あめを持参。大日岳まではトントン拍子、帰りの御西を過ぎたあたりからフラフラになり本山小屋にいた登山者から「だるま飴」をいただき元気回復し下山した思い出がある。『行きは良い良い、帰りはこわい』の山行であった。

撮影 佐竹 信幸

## 支部長就任にあたり

支部長 遠藤 家之進正和

このたび支部長を仰せつかりました遠藤と申します。

去る五月二十三日、会津山都町で開催された平成二十七年年度年次総会の役員改選に伴い、図らずも支部長と云う大任に選出されました。

橋本前支部長は、役員は若返って活気ある支部運営を図るべきであると常々発言していました。とはいえ運営は大変なものであり、経験豊富な先輩がいる中で私みたいな未熟な者で良いのかと思いましたが、身を引き締め、支部発展のため働く所存です。新たな施策を打ち出せる能力はありますが、現状を踏まえて進めたいことを申し上げてみたいと思います。

今年度からの役員は、これまで以上に運営に携わって頂くことを考えております。その一弾として女性が活躍して頂くために、佐藤レイ子さんに副支部長に就いて頂き、女性役員・委員を登用して支部会員の行事参加、公募登山参加女性の支援をお願いして活性化を図っていききたいと思います。

越後支部も公益法人となって三年目を迎えます。その目的を達成するため事業委員会を設置し、年三回の公募登山を実施しております。参加者も多くなり、事業すべてに参加されるという者もあり、県内登山愛好者にも認知されつつあります。しかし、支部会員の山行は、総会時の親睦登山と、高頭祭のみであって、支部会員対象とした

山行計画を設けてもらいたいという意見が近時多く出されておりました。これらの要望に対応するため、今年度新たに「集会委員会」を立ち上げ、同好会行事と併せ事業を検討していくことになりました。

平成二十八年度は大きな事業が二つあります。一つは、越後支部創立七十周年記念事業プロジェクトです。昨夏出版された「新版・日本三百名山」で越後支部会員が執筆した二一座を三月から十一月の間に完登する登山計画を山崎顧問中心に計画を進めております。担当を依頼された会員にありましては、快くご協力をお願いします。

二つめは、四月九日十日に全国支部懇談会を弥彦山塊で開催することです。早春の弥彦山を堪能していただくために、越後の岳人として精一杯もてなしたいと考えております。いずれも今年度役員態勢を整え、対応準備を進めますので、ご協力をお願い申し上げます。

支部会員の高齢化に伴い、平均年齢が七十歳を超え、全国支部でも上位にあるということです。支部活動の活性化は若い会員を増やすことですので、登山に興味を持って活動できる人を知って居ましたら、越後支部会員に誘ってください。

最後に越後支部会員各位のご指導を頂きながら運営にまい進したいと思っております。よろしくお願ひ申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

## 第五回中部ブロック・東京多摩支部交流会開催報告

事業委員長 小山 一夫

中部ブロック四支部の交流を深めることを目的として平成二十三年度から開催してきた交流会は今年で一巡し、再び越後支部で担当することとなりました。

例年秋に開催してきた交流会ですが、今年には越後の花の美しい時期に、特に全国的に人気のある西蒲三山の春の花を堪能してもらうため四月に実施することとし、岩室温泉を会場にして四月五日、六日の二日間、盛大に開催することが出来ました。

特に今年には東京多摩支部にも参加を呼びかけた結果、森武昭会長をはじめ、多くの支部会員の参加をいただきました。

四月五日(日)は岩室温泉の入り口、「ほてる大橋」を会場として午後二時から受付を開始。この間、二階の会場ロビーでは越後支部会員による山の写真展を開催し、参加者に見ていただきました。

二時半から桐生事務局長の司会で開会、橋本支部長による発足以来二巡目の四支部交流会に東京多摩支部の皆様からも来ていただいた。歴史のある岩室温泉で開催できたことに歓迎と御礼の挨拶があった後、東京多摩支部会員としての参加ではあるが、第二十四代会長として森武昭会長から挨拶をいただきました。

講演は山崎幸和顧問の「西蒲三山と歴史と民俗」と題した国上山、角田山、弥彦山に関する山名の由来、人、自然に係わる歴史や民俗などの興味深い話に続き、山田智子会員からは「西蒲三山の植生と春の花」と題して三月から四月にかけて三山で出会う花のリストを掲げたカラーイラスト入

りのレジュメをもとに、翌日の花の予習も兼ねて説明がありました。

続いて各支部から山に関する取り組みの現状報告の後、親睦登山の注意、事務連絡、記念撮影で昼の部を終了しました。

午後五時から各自入浴、休憩の後、六時半から会場を移して懇親会。橋本支部長の挨拶と土田名誉会員の乾杯で開宴。この日は朝から雨模様で翌日の親睦登山が気懸かりでしたが、越後支部をはじめ各支部からの持ち寄りの銘酒で盛り上がり、交流の輪が広がりました。

四月六日(月)は肌寒い日でしたが、幸い雨の降る気配はなく、七時の朝食後、八時にマイクロバスと支部会員の自家用車に分乗、角田・浦浜コースと国上山コースの二班に分かれて出発しました。

今冬は少雪で開花が早まり、心配でしたが、雪割草をはじめカタクリ、イカリソウ、ヒトリシズカなど多くの花々が尾根一面に広がり、あちこちで感嘆の声があがっていました。

午前十一時、角田山頂着。眼下に広がる越後平野を眺めながら休憩、歓談。帰路は予定の灯台コースを変更して桜尾根を下

山。予定通り午後一時半、全員無事に「ほてる大橋」に到着して橋本支部長の挨拶で解散式。来年の信濃での再会を約して散会しました。交流会の参加者は越後支部四十四名、信濃支部十名、山梨支部九名、静岡支部十一名、東京多摩支部七名の計八十一名でした。

## 国上山コース班報告

事業委員 佐藤レイ子

角田山へ出発するグループを見送り、一時間後の午前九時、総勢二十名で国上山に向け、ホテルを出発しました。

心配した天気も雨具を着ることなく、支部会員の山田智子さんを花ガイドにゆつくり登りました。

国上寺をお参りし、登山道に入るとマキノスマイル、シユンランが迎えてくれました。また、山頂近くになると、盛りは過ぎたものの、カタクリの群落も見ることができました。景色を眺めながら山頂で一服し、下山は蛇崩まで行き、手前から雨で濡れて滑りやすい急斜面を慎重に下りました。

稚児道には、コシノコバイモ、ウスバサイシンなども見ることができました。

早く下山した人は、五合庵まで足を延ば



し、十二時四十分、ホテルに戻りました。皆様にご協力いただき、大変有難うございました。

# 平成二十七年 公募登山計画

事業委員会

昨年度の公募登山は六月八日信越トレイル（関田峠～伏野峠）、九月七日信越トレイル（伏野峠～天水山）、十月五日銀の道（銀山平～駒の湯）で実施し、五十八名の参加がありました、多数の支部会員からのご協力に感謝申し上げます。

今年度は左記のとおり計画していますので引き続きご支援とご協力を御願い申し上げます。

六月二十八日(日) 上越国境（三国峠～三国山～三角山～平標山の家～元橋）

九月六日(日) 信越トレイル（関田峠～鍋倉山～仏ヶ峰）

十月二十五日(日) 塩の道（山口～白池～戸倉山～大網峠～平岩）



## 深雪晴れ、

### 小出の大力山へ登る

高橋 初代（小千谷市）

山に魅せられて、まだ四～五年の私ですが、小千谷ハイキングクラブに入っていたが、ベテランの指導者、心強い先輩の方々に出会い、山への憧れは強くなるばかりです。

積雪時、私でも軽アイゼンを付け、歩ける信州の山へ登頂した時、見渡す限りの、その白い山容に、そして夏山とは違う、誰をも寄せつけない様な凜とした佇まいに、すっかり冬の虜になってしまいました。初心者の中には厳冬のアルプス等の山々

はとても無理ですが、近くの冬の里山に、なだれや雪庇に充分気をつけ、晴れた日に限り、楽しみながら雪山に挑戦しています。

その中でも、旧小出町の大力山は我家から車で三十分位で行け、その日の晴れを確認してから、いそいそと山仕度をし、出掛けます。

林泉寺脇から雪の急登を前の人の足跡に添って一歩づつ進む。時にはもぐって転んだりしながら「ここは私のアルプス、私のエベレスト」と一人思い、そして注意して進む。登り始めて十分位で雪に埋もれたお堂を過ぎ、少し先に鉄塔がある。そこで一息入れ、山頂を見上げれば雪が日の光に反射して、キラキラとまるで山が宝石を纏っているようだ。

そこからはただ黙々と歩く。途中、下山

してくる方に出会う。挨拶を交わし危険な所はないか尋ね、お礼を言いつれ違う。スタートから一時間位でようやく山頂に立つ。先ず目に飛び込んでくる山が右手前方に八海山、そして頭だけを出して中ノ岳、駒ヶ岳と雪におおわれた山々は堂々とし又荒々しく、人をも寄せつけない様な威厳があり、近くで見るとその雄姿にいつも感激します。そして三六〇度眺望がすばらしく、上権現、下権現、遠くには妙高の山々、上越国境の山々を見る事の出来る大好きな大力山です。雪解けが始まり、カタクリ、イワウチワ等、花と出合える里山の散策も楽しく、季節により又それぞれ違う山の姿を見ていきたいと思っています。

## 【事務局連絡1】

平成二十七、二十八年度の新役員人事決定

五月二十三日に行われた平成二十七年越後支部総会において、支部役員の変更が行われました。役員の変更により新支部長が決定し、新支部長の指名により新役員人事は次の通り承認されました。

各副委員長と専門委員については、七月初旬の三役・委員長会議で指名と了解を得る予定です。

- 支部長 遠藤家之進正和（新・新潟市）
- 副支部長 桐生 恒治（新・見附市）
- 副支部長 佐藤レイ子（新・新潟市）
- 事務局長 後藤 正弘（新・上越市）

役員

（事業委員長）

小山 一夫（再・新潟市）

（広報委員長）

本間 一人（再・新潟市）

（図書委員長）

高辻 謙輔（新・新潟市）

（自然保護委員長）

吉田 理一（新・魚沼市）

（県山協委員長）

多田 政雄（新・新潟市）

（集会委員長）

遠山 實（新・村上市）

役員 成海 修（再・新潟市）

齋藤トモ子（新・新潟市）

鶴本 修一（新・糸魚川市）

立入 清（新・上越市）

田中 栄弘（新・長岡市）

松井 潤次（新・小千谷市）

齋藤 宣雄（再・新発田市）

佐竹 信幸（再・会津若松市）

森沢 堅次（再・会津若松市）

監事 庄一（再・長岡市）

遠藤 俊一（再・新潟市）

この度の改選で退任された方々は、橋本正巳支部長、本間宏之副支部長、五十嵐力図書委員長、七澤恭四郎自然保護委員長、目崎貞良県山協委員長の五名です。長い間支部業務にご尽力して頂きましたことに、深く感謝申し上げます。

【事務局連絡2】

第五十八回高頭祭

（弥彦松明登山祭）について

七月二十五日一四・三〇頃より、弥彦大平園地高頭仁兵衛寿像前にて開催いたします。今年度の来賓は、日本山岳会の新会長を予定しております。六月二十日の本部総会にて新会長選出となるため、氏名公表されておりません。その後弥彦山頂に移動し、一七・〇〇頃より御神廟前にて安全祈願祭が行われ、一八・二〇頃より松明登山祭となる予定です。尚、弥彦山岳会小林頼雄会長（越後支部会員）より連絡があり、今年度から松明登山には参加者名簿を提出して欲しいと要請されております。参加者の安全を守るための措置であり、ご理解とご協力をお願いします。松明登山参加希望者は、桐生まで連絡ください。

TEL：〇二五八―六二一〇―一四八、  
携帯：〇八〇―三二四四―六四〇六

【事務局連絡3】

支部会員動向

（二〇一四年十二月二十四日）

二〇一五年五月三十一日

1) 物故会員 (一名)

滝澤 信三 (No.4575)

2) 退会会員 (七名)

牧野 牧夫 (No.7962)

樋口 宗一 (No.4612)

大岩 義男 (No.6933)

藤間 道徳 (No.7923)

星野 光一 (No.9956)

市川 久夫 (No.13537)

小林 義廣 (No.9130)

3) 除籍会員 (三名)

渡邊 重 (No.9093)

高木 博朗 (No.9125)

桜沢 幸弘 (No.14081)

4) 新入会員 (三名)

小嶋 正彰 (No.15660)

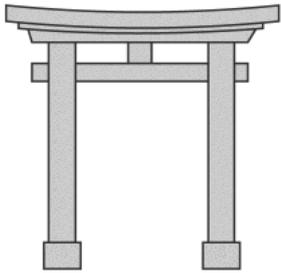
春日 良樹 (No.15695)

古川 征夫 (No.15751)

5) 復活入会 (一名)

小田 捷寿 (No.10033)

6) 支部会員数：二〇六名



フォト・スケッチ同好会から

越後支部フォト・スケッチ同好会では、第一回山の写真展を昨年十一月、上越市において新潟県山岳協会と共催で実施しました。これらの写真は四月五日(日)に開催された第五回中部ブロック四支部・東京多摩支部交流会の会場「ほてる大橋」のロビーでも展示し、交流会に参加した多くの方々から好評を得ました。

今年度は九月末に枝折峠へ撮影山行を計画しています、今のところ九月二十八日(月)〜三十日(水)の間で考えています。また山の写真展を十月に新潟県山岳協会と共催で行います。応募の要領は新潟県内と県境周辺の山で大きさは四ツ切から全紙までとし、一人二点までとします、申し込みは左記まで。

〒九五〇一〇二一〇  
新潟市江南区横越上町二一―一六  
電話〇二五―三八五―二二二五  
本間 一人

越後支部ホームページの紹介

日本山岳会公式HP↓日本山岳会の活動案内  
↓支部↓越後支部↓越後支部ウェブサイト  
又はHPアドレス  
<http://echigoshibu.web.fc2.com/>

※越後支部会員のブログにリンクするページも設けてあります、現在数名の支部会員のブログが紹介されています。

リンクして頂ける方はご連絡下さい。

(支部委員 吉田 理一)

[yoshidar@rose.ocn.ne.jp](mailto:yoshidar@rose.ocn.ne.jp)

編集後記

本間 一人

飯豊の主稜線、本山から杵差岳の縦走や二王子岳から門内岳、蒜場山から大日岳と残雪を利用しての縦走を楽しんできたが最近では体力が衰えて、飯豊をめぐる山々を楽しんでいる。

地図を眺めどこから見る飯豊が一番良いか、いい写真が撮れそうか調べるのも山行をいっそう楽しくしてくれる。今年はそのことから三座を登った、その中で五月二十三日行われた越後支部総会の翌日、黒森山(九一七m)を登ることができた、飯豊の展望台として素晴らしい山で深緑の中に真っ白な飯豊連峰南面を十分に堪能することが出来て満足であった。

この山行で驚いたのが会員No.2808渡辺欣次氏である、私が飯豊の稜線に見とれシャッターをきり続けていると渡辺氏がスケッチブックに一枚目を描き終えようとしていた、一緒に登ってきた、すぐにスケッチをはじめたのだ、会員ナンバーからして年齢は想像できると思うが、感心しきりというところだが、九月末のフォト、スケッチで枝折峠行きを誘ったとは思えないほどのこと、自分も日常生活に気を付け渡辺氏にあやかりたいものだ 反省